

2 校内研修をすすめるにあたって

校内研修は、具体的な研究テーマのもと、達成目標や検証方法を明確にして実施し、研修の成果をその後の日常活動に生かすことが大切です。一つ一つの研修が学校教育目標の実現につながるよう、PDCAサイクルを取り入れ、常に研修の見直しを行いながら、全教職員で取り組んでいきたいものです。

実態の把握

学校がおかれている環境を踏まえて、子どもの実態や教育活動を振り返り、成果と課題を整理しましょう。

めざす子ども像の設定

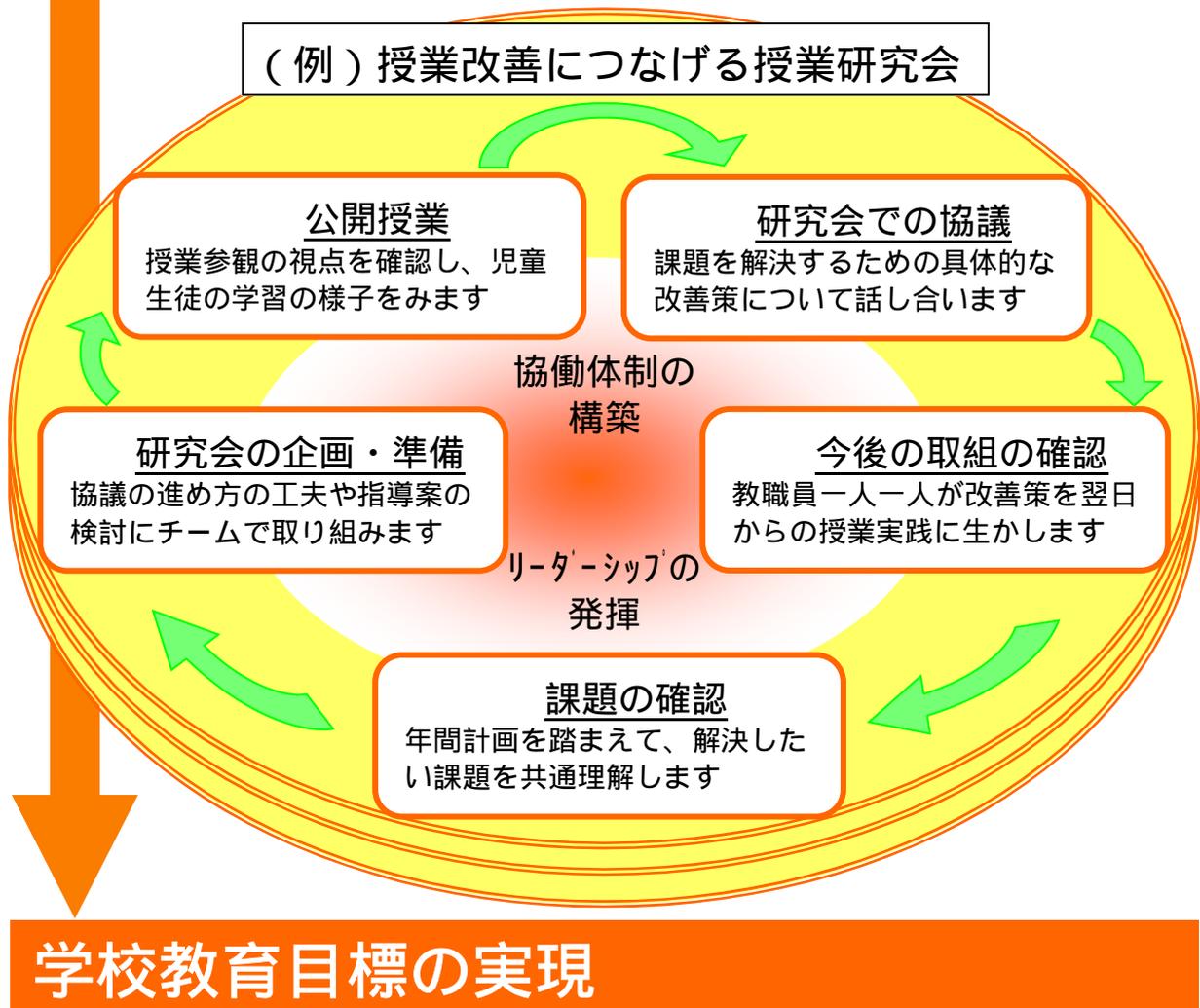
実態の把握をもとに、学校教育目標に照らして、めざす子ども像を具体的に考えましょう。

研究テーマの設定

子どもにつけたい力を明確にし、具体的で内容を絞ったものにしましょう。

年間計画の作成

学校教育目標の実現に向けて、いつ、だれが、何を、どのように行うかスケジュールを立てましょう。



校内研究と研修の年間スケジュール(例)

前年度に見通しを持って準備することが、年度当初のスムーズなスタートにつながります。

前年度

1~3月

全職員の
参画による
**まとめと
次年度の
計画**

最終評価や児童生徒の変容を捉えて、成果と課題を考えている。
全教職員が、自由に思いを出し合い、成果と課題を整理している。
個々の実践に生かせる研究のまとめをし、共有している。
学校教育目標を踏まえて、4月からの研究の方向性を確認している。

本年度

4~5月

研究の方向性
と具体的な
取組につ
いての
共通理解

研究目標が具体的で、全教職員が理解し、研究の意欲を持っている。
研究組織は動きやすく、各教職員の能力が発揮できる仕組みである。
研究会の目的・回数を無理なく設定し、年間計画に位置づけている。
各教員が自己の課題を明らかにし、個人の研究計画を立てている。
個人の研究内容を踏まえながら、県内外視察の割り振りをしている。
児童生徒、保護者、地域に研究内容をわかりやすく伝えている。
学校評価(アンケート含む)の項目に、研究に関わるものを入れている。

5~7月

個々の授業
改善につな
げる
研究実践

研究授業等で、研究の方向性や取組内容を共通理解している。
研究主任及び各部会等のリーダーが協議し、方向性を確認している。
全教職員で取り組む重点目標をしばらくこみ、実践に取り組んでいる。
授業にかかわるアンケートの項目を協議し、実践に生かしている。

職員研修
授業研究会

8月

研修内容を
もとした
個々の実践

中間評価

9~11月

職員研修
授業研究会

研修内容を
もとした
個々の実践

中間評価を踏まえて、研究の内容や日程等を見直している。
研究成果を日常の実践に生かし、意欲を持って取り組んでいる。
研究主任が「研究だより」等で情報や研究の方向性を知らせている。
教員同士で、実践や悩みごとについて、日常的に話し合っている。
研究会情報や成果等を、随時学校だよりやHP等で公開している。

職員研修
授業研究会

12月

最終評価

P D C Aのサイクルで、研修の見直しをしながら進めていくことが大切です。